

クラウドナイン・クライマーズ・ネット (東京)

## 伊藤 忠男

http://www.angkorclimbers.net

## モイモイのモイ

(一歩一歩のたった一歩)



2012年現在の僕らの人工壁、AW(アンコール・クライミング・ウォール)。



シンボン、ロスト・ライト・ケープのTAOを開拓、初登する佐久のガイド君こと、浅井和英くん。当初5.13aとしていたが、現在は5.12dで落ち着いている。ただしタフな環境因子で気分は2ランクアップが妥当かも。ブノン・チエリアのNo More Monks5.12bとともに、現時点でカンボジアを代表する好ルートだ。

ロスト・ライト・ケープだ。

着工直前までに、ドナーの数は35人になった。でも資金は、依然として見積もり額を大きく割っていた。人工壁は、屋外型で短期利用のイベント仕様となる以外になかった。しかし、先のことはそこでまた考えよう。何しろ天下のアウトドア総合ブランド、モンベルが味方についてくれ、草の根の原理を尊重した支援をそつと展開してくれたの

だ。人工壁は翌年、2010年2月1日に竣工した。けれど、真の完成からは程遠い状態だった。僕は様々な方面への影響を考えて、止む無く竣工を宣言したのだった。方々から、完成おめでとうございますと言われた僕は、居心地の悪さに苛立た。ボランテニアで集まってくれた熱血の施工技術者たちは竣工宣言とともに消えて行った。ただひとり残った佐久のガイド

## 目指せ、アンコールクライマー誕生!!

君は、できたての人工壁を使って孤児院の子供たちにクライミングを指導する傍ら、シンボン「神々の寝床」に手ごろなケープを見つけ、薄暗いテラスから天辺に空いた光の窓に向かう5・13aの美しいラインを引いた。僕が後に作ったトポでこのケープは、ロスト・ライト・ケープ、ルート名はTAO(タオ)となり、タフなクライミングを目指す君を待っている。ハングドッグは無論、RPさえやバイ。倫理、と言いたるところだが、長居は無用、獐猛な赤蟻とマラリア蚊に攻撃されるからだ。

佐久のガイド君は、子供たちのためのルートもたくさん作った。しかし2月末、その彼も消えた。それから半年以上、僕らは見放され、孤立した気分だった。運用戦術を練らなければならなかったが、まずはこの壁を100kgもある西洋人のフールと雨季の強烈なストームに耐えられるようにしなけ

ればならない。さらにスタップが安全に定期点検できるようにする必要もあった。

不器用なスムロンは与えられたモノの意味がまだよく飲み込めない風だったが、僕が一人で構造体のトップで作業していると、いつでも上がってきた。年長者に辛い仕事をさせるのは彼らの人生観にそぐわないのだ。てっぺんに立って、僕はジミー・クリフのI can see clearly nowを合唱したものだ。屋根を付け、転倒を防ぐためのバラストを積み、ケープルを張る。ブルーシートで全体をすっぽりラップし、強烈な直射日光と横殴りの雨を遮断した。さらに点検とテストをひとつひとつ繰り返し、次の乾季目前となった10月、やっと一般公開に踏み切った。最初の利用客は誕生日パーティーをクライミングでやるうというおしゃレなフランス人一家だった。そして、運用モデルを模索する間もなく、僕らは次々と象徴的な問題に直面していった。

(続く)